2021 年度　第 3 四半期　決算説明会　質疑応答要約

Q）足元は、オミクロン株の感染拡大や部材・物流費の高騰など、不透明な環境の中、自己株式の取得に踏み切った背景は何か。100 億円にした理由と併せて教えてほしい。

A）今期は利益が出そうだということが見えてきたが、不透明な環境の中、安定的な配当とのバランスで今回の株主還元について決定した。
金額については、現在の財務状況などさまざまな要素を勘案したもの。

Q）供給制約の詳細な状況について事業ごとに教えてほしい。

A）P&S 事業は、半導体不足や工場のロックダウン、輸送の長期化の影響が出ている。Q3 の生産量は、前回予想を下回って推移した。Q4 も同様の見立てをしている。

マシナリー事業の産業機器では、ベトナムのサプライヤーがロックダウンした影響で、部材が繋がらず、Q3 は生産が少し落ち込んだ。加えて、中国西安では、2021 年 12 月末から 1 か月間、西安市全体でのロックダウンにより、工場が完全に停止した。今年度の業績においては、中国向けの供給に大きく影響が出る。工業用ミシンは、産業機器同様に西安工場の稼働が停止したが、今年度の影響は軽微であると見ている。

P&H 事業のベトナム工場は、7 月末からロックダウンし、11 月からようやく回復してきたが若干、販売機会の損失が出ている。

Q）物流・部材コストが大幅に増えているが、Q4 や 2022 年度の見通しはどうか。

A）Q4 の物流コストについては、消耗品の充足にともない航空輸送費は減る見込みだが、海上運賃についてはコストが高止まりしており、下期は、物流コストの増加影響を大きく受ける。2022 年度も上期くらいまでは、コンテナ不足を含め、物流・部材費高騰による影響が続くと見ている。

Q）レーザーの消耗品が堅調に推移している背景について、SOHO、SMB の動向も踏まえて教えてほしい。

A）SMB・SOHO ともに Q3 は堅調に推移した。SMB は昨年度の Q1 に大きく落ち込んだが、足元では、コロナ前の水準には届かないものの回復している。チャネル在庫の積み増しも一部含まれるが、セルアウトを見ても、SMB・SOHO ともに堅調に推移している。Q4 に想定していた分のオーダーが Q3 に前倒しで出ているため、Q3 ほどの勢いはないかもしれないが、Q4、そして 2022 年度についてもレーザーの消耗品は、ある程度堅調に推移すると見ている。

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

Q）産業機器の受注について、前回（Q2 決算説明会時）は Q1 をピークに下がるという見方をされていたが、Q3 に上がっている理由は何か。

A）Q3 は Q2 と比べ主力の中国が上方に転じて受注が増えている。さらに Q3 で、IT 用途のスポット受注があった。Q3 の売上減については、サプライヤーからの供給難の影響が出ているが、需要が少ないということではない。Q4 についても、市況自体は全世界的に悪くない。西安工場のロックダウンの影響で、Q4 は受注が落ちるが、今後は回復すると見ている。

Q）N&C 事業の構造改革について詳しく教えてほしい。

A）昨年度は Q4 に店舗の閉店費用と減損損失で約 27 億円発生した。その効果が今期の粗利改善に繋がっている。今期の Q4 は、店舗を 89 店舗から 77 店舗に 12 店舗閉店する分の閉店費用と店舗設備の減損損失を織り込んでいる。

Q）ドミノ事業は、Q3 に販管費や物流・部材コスト増加の影響を受けているが、要因はなにか。Q4 以降の見立てはどうか。

A）売上における本体・消耗品の構成差に加え、新製品に向けた準備費用が Q3 から徐々に出ている。Q4 は、特に物流・部材費のコストアップによるものと、Q3 同様に新製品上市に向けた販管費が発生している。また、昨年はイギリスを中心に営業活動がほとんどできず、その分の経費増が Q4 も引き続き発生すると見ている。

© 2022 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.